

資料2(1)

気球事業の進捗と世界遺産関係の手続きについて

年度	月	堺市	学術委員会	ユネスコ
R2	1月	●事業者募集開始		
	2月			
	3月	●5日：企画提案書等の受付締切	○2日：第10回学術委員会 -影響評価手法検討 -今後のスケジュール検討	
R3	4月	埋蔵文化財試掘調査 景観アドバイザー会議 気球製造開始 植栽移植等の事業地整備 気球設置工事 試運転	○後半：第11回学術委員会 -運行計画説明 -影響評価手法検討	◇HIAとしての試行実施 について情報提供？
	5月			
	6月			
	7月		○第12回学術委員会 -学術委員試乗	
	8月	◎運行開始（最短）		
	9月			
	10月			
	11月			
R4	12月		○第13回学術委員会 -中間報告	
	1月			
	2月			
	3月		○第14回学術委員会 -中間報告	
	4月		○第15回学術委員会 -HIA評価書(案)検討	
	5月			
	6月			
	7月		○第16回学術委員会 -HIA評価書取りまとめ	◇HIA結果報告
	8月	◎HIA結果可の場合、継続運行		
	9月			
	10月			
	11月			
12月				
1月	◎ユネスコ意見を取り入れて運行		◇時期不明：HIA報告に対する反応	
2月				
3月		↓最長10年以内で継続		

ガス気球運行 遺産影響評価項目（案）

ガス気球運行による資産への影響

(1) 「顕著な普遍的価値」への影響

大項目	細項目
a) 49 基の墳墓 (世界遺産の構成資産) ⇒ 影響なし	a1) 幾何学的形状
	a2) 築造方法と材料
	a3) 濠
	a4) 考古遺物と内包物（副葬品、埋葬施設、埴輪を含む）
b) 古墳のセッティング	b1) 大阪地域での古墳の視覚的存在感 気球本体が存在感を著しく阻害するかどうか ⇒ 写真
	b2) 古墳と古墳の間の今も残る物理的・視覚的つながり 気球本体がつながりを著しく阻害するかどうか ⇒ 写真
c) 無形的（古墳に備わった葬送文化的）な側面	c1) 独特な葬送習慣の物証 ⇒ 影響なし
	c2) 儀礼のための使用の物証 祭祀や参拝を著しく阻害するかどうか ⇒ 写真・アンケート・ヒアリング

(2) 「緩衝地帯の保全」への影響

- ・景観との調和
⇒ 景観アドバイザー会議
- ・周辺住環境への影響
⇒ アンケート調査

(3) 価値理解の促進

- 周辺施設（博物館やビジターセンター等）との連携、古墳群周遊の促進
⇒ 連携の有無、アンケート調査
- 古墳群の価値魅力の発信、古墳群への関心を高める取り組み
⇒ 気球搭乗により古墳の存在感やつながりを体感できたか
⇒ 百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を伝える工夫の有無
⇒ 上空からの眺望に加え、古墳群への関心を高める取り組みの有無

HIA 評価手法（案）

影響	評価項目	手法	対象者	備考
「顕著な普遍的価値」への影響	古墳の視覚的存在感を阻害するか	写真検証		
	古墳と古墳の間の繋がりを阻害するか	写真検証		
	儀礼のための使用を阻害するか	アンケート調査またはヒアリング 写真検証	来訪者	
「緩衝地帯の保全」への影響	景観との調和	景観アドバイザー会議	景観アドバイザー	気球製造前
	住環境への影響	アンケート調査	地元住民	
価値理解の促進	周辺施設との連携 周遊促進	取組の報告	事業者	
	魅力発信	アンケート調査	利用者 来訪者 公園利用者 地元住民	HP アクセス数やSNSでの口コミ数の集計等も検討
	関心向上	アンケート調査	利用者 来訪者 公園利用者 地元住民 堺市民	利用者と利用者以外の方との比較等を検討